

九九の表
九九の表
九九の表

○ 九九の表
九九の表

○ 九九の表
九九の表

九九の表
九九の表

○ 九九の表
九九の表

西洋算術算指南

九九の表

〇	一	二	三	四	五
一	二	三	四	五	六
二	三	四	五	六	七
三	四	五	六	七	八
四	五	六	七	八	九
五	六	七	八	九	〇
六	七	八	九	〇	一
七	八	九	〇	一	二
八	九	〇	一	二	三
九	〇	一	二	三	四

則書はるる付二位殺かけ書きあり九の算の式候
 目あり二九十八と書 解きしきふあり

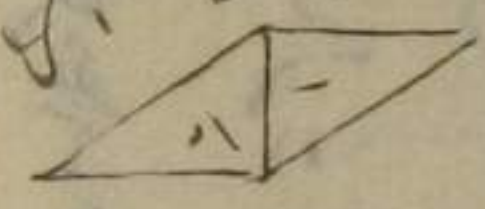
○此の横筋九一そ九九の殺強る九は九引あり斜小
 引との算一十位とありせんかあり

十位	二位
十位	一位
十位	一位
十位	一位
十位	一位
十位	一位
十位	一位
十位	一位
十位	一位
十位	一位

九
八
七
六
五
四
三
二
一

一候の内と合つて二位とを斜
 筋の上の十の位下二の位あり
 列上の算の如し
 此の如し亦斜筋の上の算の算
 のあり一位とあり斜筋の下を
 後の算のあり十位とあり

此ともたしやまは解かし故
 同位とらぬるよりわ下ふ
 示は



○又算式二ツと二ツとありし付を同一位あり
 一形の如し同一位あり

左の初有^四の如しの二候目の
 斜筋のわふあり中の^六の如しの
 同一候の如しのとあり同一
 位ありと下の算十上の算
 の一とあり一たけあり付を
^四の如しの二候目の八と^六の如
 の二候目の一とあり^四の如
 を合せ九と成る又^六の二と
^四の一と合せあり^四の六は
 如しのつとあり^六の如
 一と書とあり

百	六	八
二	二	六
二	二	四
二	二	二
二	三	百
二	三	八
二	百	五
三	二	六
三	二	百
三	五	七
三	四	二

別紙の事

○ 五十一を十二万四百五拾石減二ツお別進ハ何種と同

答曰六万千七百五拾石

○ 法の二の算を一に二りの方を五次ゆ筆を減り書べ一
 先横筋減引上の方へ法と書ると一に二は者とあ一て
 そ次お算と志を二に次お減りの角を二に引ぬき程と
 見ると六段目お十二と一の殺あり故おけ殺を二に引あり
 引時算お書くと五十二の下この通り十二と書き一
 書減り二に引ば二に横筋筋を引け二ツ乃
 殺を二に切ぬるある一に二の下
 乃通が六段目へ一と二のありの二回めとば二の
 筋の下へ二の段の中におある一と二を二に引くと二
 六の殺を二に引くと二に段ある一と二又横筋を二
 二に切ぬると二に段ある一と二又横筋を二
 六に切ぬると二に段ある一と二又横筋を二
 の通りお書くと二に段ある一と二又横筋を二
 上みの通りと二に段ある一と二又横筋を二
 殺を二に引くと二に段ある一と二又横筋を二
 殺を二に引くと二に段ある一と二又横筋を二
 書けと二に段ある一と二又横筋を二
 六に切ぬると二に段ある一と二又横筋を二
 又是を二に引くと二に段ある一と二又横筋を二

引横筋を引てその下の通りのちうの二を書て其一
と又引んと其まばり目より一の殺あまはるは是と
引ありさそを横筋を引て其殺あまはるは是と引切
るありさそ初めは返殺とあまはるは實の百くは
あまはる書て二十とあまはるはあまはる返殺とあまはるは
あまはるあまはる殺のあまはるあまはる初めは目より一の殺あ
商の如くはと書二は目より一の殺あまはるは目より一の殺あ
書二は目より一の殺あまはるは七は目より一の殺あまはるは七
は目より一の殺あまはるは七は目より一の殺あまはるは七は
目より一の殺あまはるは七は目より一の殺あまはるは七は
除るを效く知るべし

算解

法	實	商
(二)	一 二 三 四 五	六 七 八 九
	一 二	十 十 十
	三 四 五	
	一 四 五	
	一 四	
	五 四 二 一	

意振の筆

○多しは六万一千七百廿拾五石二ツ合せしハ何程
ふあしと同一

卷四十四万二千四百五拾石

○法の二の筆を左に並べ次にお実の筆とたふあしと
法の二の筆をふ二あるくお実の筆の二は目と見せ
ハ皆かゝりてあるありけり教と傍れ紙面にお書き
共写し紙に横お列して書きしるし二は目おかひする
程を多書する時其初の程十位を二は目の程十の位に
あしハ一字上りて書又初十位で後の一位あしハ初の程と
書る通の下にお書又初の程一位あしハ後の程一位でも先ハ一字
進とあしるし紙ハ初の程一位あしハ後の程十位
あしハ二字先へすむと知る處しといふとあしハ毎
時ハ程の増がありしり割付其一字お下りと同
理あり是ハ程の減するありありと知るべし
以下よりあしとあしと

一	二	三	四	五
一	二	三	四	五

計算の如く先づこの数を横において
 書き横筋より初めて次の上を
 おぼろしき時をその筋の下に実
 かかりの数を書きしるあり今計算
 といふ云々の其意を得か
 故に算意の筋におぼろしき数の
 算端よりその下の数をい
 へる十のありと上へる十のあり
 左の横筋より一毎にその数はあり
 此程右の如し

法

二	四	六	八	一	二	四	六	八
---	---	---	---	---	---	---	---	---

實

二	六	一	七	二	五
三	二	二	四	四	一
四	八	三	一	六	五
五	四	四	八	八	二
六	三	五	三	一	五
七	三	六	四	二	三
八	四	七	九	四	五
九	四	八	六	六	四
一〇	五	八	六	一	八
一一	四	八	三	八	五

此通式は同なり

此計算の如く先づこの数を横において
 書き横筋より初めて次の上を
 おぼろしき時をその筋の下に実
 かかりの数を書きしるあり今計算
 といふ云々の其意を得か
 故に算意の筋におぼろしき数の
 算端よりその下の数をい
 へる十のありと上へる十のあり
 左の横筋より一毎にその数はあり
 此程右の如し

十一

米石万石を俵を俵で二年分俵入
石を何程と云

言曰或方部四百石

二	二
三	九
一	二

則十おあ色を一也付一書と書一々よく
なりある中の十二の程と二と志部一十をば上
の一の層はおらるなりある一か二と成るとある
海

見一の候

別振の事

銀百目と十六人と云
去人若何程と云

答云云部ト云

五厘
四分
六分

一	〇	〇
一	九	六
四	〇	二
三	八	八

一五厘同アリ

六) 一六
一六
一六
一六
一六
一六

一六同アリ

同
算算の半

限らぬ部をの重と十六
までは何程かあると同

算算の半

三	七	五
一	六	二
一		五

則上の之を六六之拾の位あり下の六六六六の六あり
故下の六と上の之と同位ありて之を上の下の書
はる者あり前の算の斜筋の下の下の算の斜筋
の上と同位ありふ同

算算平方式

甲 甲中

一四四 一十二ケ

一五六二五 一十二ケ半

九五〇六二五 九ケ七五

乙 〇 甲乙 乙中
一五七五〇二五 一二五ケ五

三四二二五 一八ケ半

丙 〇 甲丙和 丙中
三六二五二一六 一九〇ケ四

丁 〇 甲乙丙和 丁中
七九七四四九 八九ケ三

逐而倣之

位取第六也

八二二四八五〇四一二八六ケ七九

術云甲高倍シ乙高ヲ乗乙高中ヲ加入シ

ニ実数ヲ引三ノ高ハ甲乙ノ高ヲ倍シ丙高ヲ
乗シ丙中加ノニ実数ヲ引逐而加斯

立方式

甲 甲再中

乙 〇
||| 甲乙中
||| 甲乙中

乙再中

丙 〇
||| 丙甲和
||| 丙甲和

丙大

丁 〇
||| 丁甲和
||| 丁甲和

丁大

右同断 位取第一也

算算平古左

一四四

一五五

一六六

文化丙子年夏六月

